

峯ヶ塚古墳

峯ヶ塚古墳は 5 世紀後半に築造された前方後円墳だ。元型は 2 段築成で 2 重濠を有した。内部施設が調査されている数少ない古墳だ。1987 年から合計 15 回の発掘調査が行われた。調査から 3,500 点以上の副葬品が見つかり、古代日本の生活がどのようなものであったかを明らかにしている。

出土品の中で最も印象的なものは金銅製の魚形の装飾品だ。大刀の持ち手の飾りとして紐に付けられていたようだ。魚はそれぞれに動かせる蝶番部分につけられており、目、うろこ、ひれなどの細かな彫りに、高度な職人の技が現れている。古墳からは他にも銀や銅製の花がたくさん見つかった。花びらの先に穴があることから装飾品として衣服に縫い込まれていたようである。

古墳は高さ 10.5 メートルで面積はおよそ 1.12 ヘクタールである。